

ふくろう新聞

A W A J I Y O E 北齋

UKIYO E 北齋

11月6日(土)・7日(日)



▶ 一心不乱に浮世絵を描く北齋(詳細5ページ)

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

ホームページ

<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

第三者評価を受審して

専門的・客観的立場から評価を受けることで、事業の透明性を確保しサービスの質の向上に取り組もうと第三者評価を受審しました。

受審するにあたり、まず自分たちでチェック項目の自己評価を行いました。多岐にわたる項目に戸惑いつつも、自分たちが行っている業務について三段階で評価していきましました。



▲ヒアリングを受ける職員

11月19日に竹邊正晴さんが永眠された。「経済成長期のじやま者たちー理由なき精神科病棟への隔離」(ふくろうまなびあい文庫⑦)は竹邊さんの人生の総仕上げでもある。「お世話になった方々に」と100冊を遺贈された。元理事長の白水祥文様のご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

そして迎えた当日、実際に提供している介護サービスはもちろん、その基となる理念や組織体制、運営管理など幅広い分野について、施設全体の状況をありのまま見ていただくことができました。利用者へのアンケート結果を含む詳細は後日いただくことになっていきますが、とりあえずの講評として、「地域との関わりや幅広い交流、利用者の特性に配慮した特徴的な取組、職員のチームワークの良さ」を高く評価していただき、「議事録や研修記録の可視化、マニュアルの整備」などが課題にありました。受審した職員からは、「施設全体としての目線を持つことができ、長期的な計画とそれを達成するまでの過程、評価や改善を意識した会議運営など今後の目標ができた」と前向きな感想が寄せられました。

(総務主任 竹内マリ子)

各ユニットで冬支度

師走に入り、クリスマスやお正月がもうそこまでやってきました。各ユニットでは、クリスマスツリーを出して飾りつけを入居者へ手伝ってもらい、冬の装いに設えています。

12月は餅つきやクリスマス会など楽しみな行事が盛りだくさんですが、一段と寒さが厳しくなりましたが、体調管理に留意して、一緒に楽しみたいと思います。



▶ 飾りつけをする月川ユニットの入居者たち

ふくろう物語 柴野 つや子様



大正13年11月11日、淡路島屈指の漁師町由良にある浜端家に11人兄弟の長女としてお生まれになりました。幼少の頃からとても兄弟思いのお優しい方で、特に24歳はなれた妹さんをかわいがられたそうです。

交換をされ、時には当時淡路島にあった電車に乗り三原の農家まで足を運ばれたそうです。

戦後すぐに両親の勧めでとくお様とご結婚されました。子供がいなかった分、妹や兄弟の子供達を我が子、我が孫のようにかわいがられていたそうです。旦那様はとても優しく仕事熱心な方で『宅配業』をされておりました。当時は競合他社がなくほぼ独占状態で毎日夜遅くまで休みなく働かれていたそうです。

店を切り盛り大忙し

つや子様もご自宅を改装しうどん屋を始められました。お店のななめ前に魚の卸売市場があり昼時には由良の漁師達や仲買人が食べに来られて大繁盛していました。つや子様も熱心に働かれうどん屋でありながらお好み焼きや中華そば、おでん等提供され、手作りのところて

んも大評判でした。

また、当時ではまだ数が少なかった自動販売機がお店に設置されると、缶コーヒーやジュースが飛ぶように売れ「由良で一番売れる自販機」と言われるまでになりました。

しばらくしてうどん屋の2階で民宿も始められ85歳まで多角経営されておりました。ミシンを使うのが上手で洲本へ布を買って来られては服を縫って妹様や姪様にプレゼントもされておりました。

歳月が過ぎ仕事も落ち着かれた頃に姉妹でよく旅行に行かれました。海外ではハワイ、韓国に。国内は九州から北海道まで色々な所で思い出を作られました。姉妹や姪様の女6人で北海道旅行に行かれた際、現地で「旅物語」の編集者に声をかけられ、阿寒湖での笑顔の写真が表紙を飾る事があり、一躍由良の有名人にな



▲ボーリングをするつや子さん

第二の人生

たったそうです。

旦那様が亡くなられてからは深い悲しみとこれまでの疲れがあつたのか徐々に体の自由が利かなくなりふくろうの郷でロングショートを経て花木ユニットへ入居される事となりました。

入居されてからも時々職員を呼び止めては「兄ちゃん海老買うてきたるか。小遣いやるか」等、優しさはそのままで。入居当初の山ユニットに居られた時と比べ、歩く事は難しくなりましたがご自身で車椅子を操作されて施設内を自由に移動されて

います。甘いコーヒーが大好きでいらつしやり朝一番にお出しすると「おいしいわ」とにこやかにお飲みになられます。

時折「家に帰りたい。帰らせて」と自宅や妹様を心配される事がございます。コロナ禍が落ち着いたら一度、自宅へ帰り妹さんと面会して頂ける環境を整えてまいります。とても働き者であったつや子様には穏やかにふくろうの郷で過ごして頂きたく職員一同尽力してまいります。
(花木ユニット 風 一郎)

全国聴覚障害者福祉交流集会 in 京都 (オンライン開催 12月11日・12日)

昨年は開催中止となり、今年の開催についても危ぶまれる中、オンラインで開催することができました。淡路ふくろうの郷の実践報告(レポート2本)をさせていただきます。

ふくろう大学演劇講座「ふれあい座について」

生活援助員 木下卓幸

1. よい暮らしに必要なもの
心の健康・他者との関わり(コミュニケーション)
2. コミュニケーションで大切なもの
「感情の共有」
3. ふれあい座の始まり
演出家・劇作家・舞台俳優である庄崎隆志氏の指導のもと担当職員と入居者で作り上げていく
4. あいうえおの原則
参加者主体型で「あかるく・いい加減に・うれしい気分で・おもしろく」をモットーに月1回開催しています。
5. 入居者の変化
気持ちの共有と信頼関係の構築により、生活の中では感情の吐露やひとりの時間も大切ですが、【楽しい感情の共有】を積み重ね、入居者の方々の生きがいになれるよう活動を続けて行きたいと思っています。

※入居者との関わりを持ち方や工夫や気を付けていること、コミュニケーションが取りづらい方との関わり方について意見交換することができました。これからの支援に繋げていきたいです。

12月・1月 ふくろうの暮らし

- 12/15(水) クリスマス会
- 12/17(金) 回想法
ふくろう大学料理講座
- 12/21(火) おのころパン販売
ふくろう大学絵手紙講座
- 12/22(水) 餅つき
来年の漢字
- 12/24(金) ふくろう大学書道講座
- 12/29(水) 門松作り
手話講座
- 1/ 1(土・祝) 互礼会
- 1/ 5(水) 誕生会
- 1/ 6(木) 初詣
- 1/ 7(金) おのころパン販売
- 1/15(土) とんど焼き

『まなびあい文庫編集作業を通して学んだこと』

生活援助員 川満和則

1. 川満の場合
人生の大半を精神科病院での入院生活で過ごされた竹邊さんについての取材を通して、当時の社会事情や、家族が抱えていた想いを学び、自分の仕事の意義について再確認できた。
2. 伊達の場合
担当した方について、理解を深めたい気持ちが強まり、より注意深く見て、その方について考えるようになった。
文章の記述に苦手意識があったが、意見交換を通して内容を膨らます事ができた。
3. 堀田の場合
入居者の人生に向き合って文章を書くには、まず自分の人生も振り返り、自分が入居者に対して何故そう考えるのかの考えの根源を明らかにしないと、思いが伝わらないと分かった。
作業を通して、自分の人生に向かい合えた。

ふくろうまなびあい文庫

書籍紹介・感想



ぜひ手に取ってお読みください。お求めは淡路ふくろうの郷・神戸長田ふくろうの杜まで。

新刊「経済成長期のじゃま者たち」を読んで

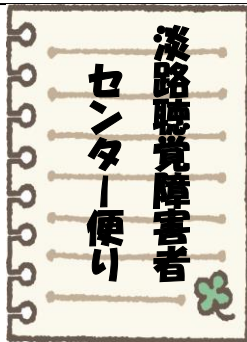
第1章理由なき精神科病院への隔離された竹邊正晴氏が“自分を語る”聞き取り表出される支援、第2章に書かれた4人の実践が参考になりました。それぞれの立場で客観的に書かれていると思います。

社会的入院した病院は今も様々な問題を抱えています。が、“人として見る”・“支える”病院スタッフの話もこの書では書かれており、竹邊さんを多くの方が支えてきたことが良く理解できました。大切なことはチームワーク良く、情報を共有しあうことで問題解決の糸口が見えてくると思います。“じゃま者たち”の真の意味を歴史から学ぶことが私たちの使命ではないかと思っています。

(淡路ふくろうの郷 施設長 狭間孝)



▲グループに分かれゲーム感覚でワークをする参加者



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

「聴覚障害者の心理を学ぶ」 登録通訳者研修会開催

11月3日(水) 洲本市健康福祉館にて手話通訳者、要約筆記者を対象に研修会を開催し12名の参加がありました。
今回は、県聴覚障害者情報センターに勤務する臨床心理士・

公認心理師の林正範氏に「聴覚障害者の心理」と題してお話いただきました。

聞こえないことは心の発達に大きな影響を及ぼすものであるということ。例えば自己の進路決定では自分のことなのに、先生や親が決めてしまふなど自己決定の機会が減ってしまいます。社会に出たときに急に責任や判断を求められることに苦痛を感じたり、活動が制限を受けるなど喪失体験を味わうこととなります。

周囲の関わる人は聴覚障害者が自らの判断に必要な情報保障の提供を求める力を育むことや、その人の文化や教育背景、いま置かれている状況などを総合的に見ていき、必要な支援や配慮が何かを考えていくことが大切となる等のお話がありました。

受講された方からは「コミュニケーションのずれに伴う障害について再認識することができた。聞くこと、伝える

この大切さを学べた」との感想がありました。

話に付き合うという姿勢

また、聞こえない中で情報をどうとらえられるかのワークショップがあり、「自分だけ違った情報を持っていても、多数の方の情報が優先される、納得できなくても自分の意見をいづらひ。ワークショップを通じて聴覚障害者が抱えているしんどさに気づくことができた」との意見もありました。

どんな内容の情報を提供するかで判断に影響を及ぼすこと、また話しの聞き手が、良い、悪いと判断を押し付ける態度だと、心を閉ざしてしまうこともあり、相手の話がどのようなものであれ、そのまま関心をもって「話につきあう」という姿勢が大切ということを学ばせていただきました。専門的なカウンセラーでなくても通訳者として心にとめておかなければならないと改めて気付くことができました。

終活について一緒に考えよう

第5回社会生活教室 11/19

今年度5回目の社会生活教室を開催しました。今回は「終活をいっしょに考えてみましょう」をテーマに、洲本市消費生活専門相談員の大本史子氏にお話いただき、13名の方が参加されました。

「結婚していない方、結婚していても子供がいない方、子供はいるが老後は子供には期待できない」など不安を持つ方は多くいます。終活とは老後に備え、お金や、葬儀、お墓、相続、病気や介護が必要になったときにどうするのか、等々多岐にわたります。参加者はうなづきながら熱心に話に聞き入っておられ、関心の高さが感じられました。講師からは認知症で自分の希望が伝えられなくなった時や人生の終



わりに備えて、家族が困らないように自分の希望を「エンディングノート」に書きやすいところから少しずつ書いていきましょう、との説明がありました。

参加者からは「お墓のことで悩んでいたのがタイミングよく話が聞けた」の声や相続についての質問がありました。

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



AWAJI ユニバーサル演劇～UKIYO E～北斎公演成功!!

11月6日(土)～7日(日)淡路

路ふくろうの郷職員であり、演劇団体「風の器」主宰者である俳優の庄崎隆志氏が洲本市のSBRICKにてAWAJIユニバーサル演劇旗揚げ公演「UKIYO E北斎」を開催しました。庄崎さんは長年関東を拠点に世界中で演劇活動を行っていましたが、「アート、文化活動で地域活性化」を夢に2年前東京から淡路島へ移住、関係者・団体の協力を得て今回の公演となりました。

様々な制限がある中でしたが、洲本市副市長、教育長はじめ137名の方にご来場いただき(全4回公演、定員160名)、コントラバス奏者2名と庄崎さんによる迫力あるステージが展開されました。

ご覧になられた方からは「言葉のない演劇。北斎のことも名前しか知らないし理解できるか心配だったがいつのまにか引き込まれていた」(40代男性)

「淡路島でこんな本格的な演劇に触れることができるとは思わなかった」(70代女性)と概ね好



評の声をいただきました。

今も全国を飛び回っている庄崎さんですが、夢の実現に向けて今はふくろうの郷・ふれあいセンターがある中川原や市内での活動に力をいれていくことを予定しており各関係機関とも話し合いを進めているところです。今後皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

(ふれあいセンター 濱田)



地震の避難訓練

(ふれあいセンター)

11月16日(火)午後2時、利用者職員41名で地震発生を想定し、頭を保護し、洲本給食センター側の駐車場へ怪我なく避難できました。

今後の課題は、利用者の誘導方法について、優先順位などを職員間で共有しておく必要があることがわかりました。災害時に迅速に対処できるように備えたいです。

(防災担当 橋詰)



▲地震がおさまり、避難誘導しています

神戸長田ふくろうの杜

〒653-0836
兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941

心も体もぽかぽか

「ふくろうの杜デイサービス」

10月末には「ひょうご聴障ネット」からご支援いただき「リフト浴」を設置することができました。身体的な理由で湯船に浸かることができなかつた利用者



▲文化祭前日「気合をいれるぞ！」

入居者が楽しく過ごせるグループホームを目指します！



▶洗濯物の確認作業中

「神戸平野ふくろうの樹」今年6月に開所し、8月には定員10名の入居者が生活を始めています。最初は新しい生活に慣れることに精一杯でしたが、次第に生活のリズムもでき、落ち着いて生活していただいています。

健康面での課題を持つ方も多く、通院支援や服薬の支援などを把握し、支えていくことも必要です。職員が意思統一を図り、入居者が楽しく過ごせるグループホームを目指します！

「生きがいデイサービス」

昨年11月にろうあハウスから移転してから、この一年間はコロナ禍で昼食の提供ができず、短時間のデイサービス

「放課後等デイサービス ふくろうの杜」

現在19名の児童のご利用をいただいております。元氣と若さのエネルギーをおすすめいただくと日々です。子どもたちから学ぶことが多く、逆に職員が育てられています。

「B型・生活介護」

B型は食堂と下請け作業に分かれて頑張っています。作業の習得状況に差があるので、個々のレベルアップの支援、やりがいを増やせるよう作業づくりが課題です。



「当番を決めて毎日の食事作り」

生活介護では、それぞれのなかまの特徴を掴むことができるようになり落ち着いてきた部分もありますが、健康面での支援では説明をしても伝わりにくい部分もある為、伝わる方法で説明するなど工夫をし、今後も地道に健康について伝え続けていきます。